

事業概要

(平成30年度のまとめ)



京都府立図書館

目 次

I	概要	
1	京都府立図書館の概要	1
2	平成30年度の主な取組	1
3	平成30年度の主な利用状況等	4
II	図書館資料	
1	総資料・年間収集資料	5
	(1) 総資料数	
	(2) 年間収集資料数	
2	図書	5
	(1) 資料数	
	(2) 館内閲覧・個人貸出用図書の分類別数	
	(3) 視聴覚資料・障害者用資料数	
3	逐次刊行物	6
III	利用状況	
1	開館日	7
2	入館者	7
3	新規利用登録者	7
4	ホームページアクセス	7
5	個人貸出	7
	(1) 貸出者数	
	(2) 貸出図書数	
	(3) 借受提供数	
6	複写利用	8
7	調査相談等	8
	(1) レファレンス	
	(2) 他館紹介状発行	
	(3) 他館所蔵資料複写	
8	障害のある方へのサービス	8
	(1) 対面朗読サービス	
	(2) 点字・音声資料貸出	
	(3) 視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」利用	
9	マルチメディア利用	9
10	図書館等への貸出	9
	(1) 相互貸借	
	(2) 機関貸出	
	(3) 一括貸出（貸出文庫）	
11	学校への貸出	10

IV	事業	
1	市町村連携・市町村支援	11
	(1) 京都府図書館総合目録ネットワーク	
	(2) 連絡協力車	
	(3) 図書館・読書施設等職員研修	
	(4) 京都府図書館等連絡協議会	
2	学校支援等	14
	(1) 学校支援セット	
	(2) 来館型調べ学習等	
	(3) 子どもへの読書活動支援事業	
3	調査研究・課題解決支援及び情報発信	15
	(1) 大学連携	
	(2) 図書館サービスにかかる利便性の向上	
	(3) 館内見学会	
	(4) 図書館活用講座	
	(5) 講演会等	
	(6) 資料展示	
	(7) 「知的な交流の場の創設」に向けた取組	
	(8) 地域連携	
	(9) 行政支援サービス	
	(10) 広報	
V	施設等	
1	施設及び設備等	24
2	組織	25
3	経費	25
VI	沿革	
1	年表	26
2	歴代館長	30
	資料	31
	・京都府立図書館基本方針	
	・京都府立図書館資料収集方針	
	・京都府立図書館サービス計画（平成28年度～平成32年度）の概要（広報用資料）	

I 概 要

1 京都府立図書館の概要

京都府立図書館は、日本で最初の公立の図書館である「集書院」を源流とし、明治31年に京都御苑内に設立され明治42年に現在の岡崎の地に移転して以来、百年を超える長い歴史と伝統を刻んでいる。

平成7年の阪神・淡路大震災により建物が大きく損傷したため、ルネサンス風の外壁正面部を残して建替工事を進め、平成13年に地上4階地下2階建の新館を開館した。この間に、府の社会教育委員会議から市町村立図書館との役割分担を打ち出した「生涯学習社会を展望する京都府の図書館の在り方について」の提言を受け、明治の雰囲気を残した現在の建物で、特に市町村支援と調査研究支援を中心とする取組を進めてきた。

平成27年度には新たな「京都府立図書館基本方針」及び平成28年度から5年間の「京都府立図書館サービス計画」（以下「サービス計画」という。）を策定し、変化の激しい社会において新たな課題に直面する府民の知的活動の拠点となるとともに、府内全域に均質な図書館サービスを提供することにより、府民に期待される存在となることを目指している。

基本方針

- I 府内全域の図書館をつなぎ、支援するとともに、協力して図書館サービスを展開します
- II 多様な文化資源の情報を取り扱い、歴史と立地を活かしながら、幅広い調査研究のニーズに応えます
- III 議論し発信する場を提供し、課題を解決する拠点となることにより、文化の創造と地域の活性化に寄与します

2 平成30年度の主な取組

サービス計画の3年目に当たる平成30年度は、基本方針に基づき、図書館サービスのさらなる向上と様々な機関との連携の拡充に努めたところである。

(1) 府内の各図書館とのネットワークの強化

府内の市町村立図書館等との相互貸借図書の搬送や府立学校への図書の搬送等のために運行している連絡協力車について、平成29年度から市町村立図書館等への巡回を週1回から週2回とし、各市町村立図書館等や大学図書館における図書資料の取り寄せ利用の利便性を大きく向上させた結果、相互貸借による貸出が対前年比増となった。

大学図書館と連携した相互貸借については、平成30年度に試行を含め3大学が新たに増え9大学図書館(京都学園大学図書館(平成31年4月～京都先端科学大学図書館)・京都大学附属図書館・京都教育大学附属図書館・福知山公立大学メディアセンター・佛教大学附属図書

館・京都府立医科大学附属図書館・京都工芸繊維大学附属図書館・京都府立大学図書館・花園大学情報センター(図書館))となった。

(2) 図書館サービスにかかる利便性の向上

平成29年11月に試行開始した京都市図書館との本の相互返却サービスを、平成30年11月に「京都市図書館との返却本お預かりサービス」として本格実施し、府民の返却にかかる利便性の向上を図った。府立図書館で借りた図書を京都市図書館(20館)を通じて、京都市図書館で借りた図書を府立図書館を通じて返却できるもので、双方の休館日に加え、借りた本を身近な図書館に返却できるなど、平成30年度の利用は前年度と比べ月平均で60%以上の増となった。

(3) 市町村立図書館・読書施設職員の研修

市町村立図書館・読書施設の職員が研修に参加できるように、府立図書館の職員が講師として市町村立図書館等に出向いて行う出前研修を府内3か所で試行実施した

(4) 各種講座等の実施

多くの方々に府立図書館を知ってもらい、広く利用していただくことを目的に平成28年度から「府立図書館連続講座」を開催している。

京都で研究に携わっておられる方々に御自身の研究や本との関わりなど、様々な角度から語っていただく講座であり、講師のおすすめ本や、講演のテーマに沿った図書を司書がセレクトして当日会場で展示するなど図書館機能を活用した講演会であり、平成30年度は8回に拡充して実施した。

また、「図書館活用講座」についても平成30年度は、土日祝日の開催とし、タイムリーな出来事や健康に関することなどをテーマに設定し、講演に加えてワークショップやデータベース体験、周辺の建物見学の実施など知的好奇心をくすぐる参加・体験型の講座とした結果、参加者が昨年度の2.2倍となった。

さらに、日頃見ることができない図書館のバックヤードや自動化書庫等も見学できる「館内見学会」を毎月第3水曜日に開催し、「書庫の大きさと設備に驚いた」といった感想が多く寄せられている。

加えて、平成31(2019)年は京都府立図書館が岡崎の地に移転・開館して110周年になることから、明治42(1909)年2月2日に竣工したことを記念した展示会や著名な講師による講演会を実施するなど、府立図書館の利用促進に努めた。

(5) 近隣文化施設との連携

京都岡崎魅力づくり推進協議会が行う多くの取組に参画した。8月に実施された「岡崎プロムナード・星の饗宴」にあわせた夜間イベント「音の図書館」を今年度も引き続き開催した。図書館閉館後、前庭において府立鳥羽高等学校吹奏楽部による演奏会を行うとともに、館内地下フロアにおいて内田 奈織氏によるハープ演奏を開催した。奏者や演奏曲に関連する図書を展示するとともに、参加者には特別に図書館カードの作成や図書の貸出など、図書館ならではの取組を行ったところである。

更に9月に実施された「京都岡崎ハレ舞台」では、府立洛西高等学校・府立菟道高等学校の各書道部による書道パフォーマンスを初めて実施し、撮影した動画を1か月間エンタランスで上映するなど、岡崎地区全体の事業の盛り上げに貢献した。

(6) 子どもへの読書活動支援事業

様々な課題（生活困窮世帯・ひとり親家庭等）を抱える子どもが夢や希望を持って成長していけるように、府立図書館が所蔵している子ども向けの図書約9万冊を、京都府が実施している事業の支援を受け、「子ども食堂」や「子どもの居場所づくり」に取り組んでいる団体に、1回あたり100冊以内6箇月以内で、搬送費用を含め無料で図書を貸し出す事業を平成29年11月から開始した。

平成29年度は11団体が平成30年度は13団体まで拡大し、1,467冊貸し出した。

(7) 京都府立図書館協議会

外部有識者の知見を活用する仕組みとして、図書館法第14条から第16条の規定による「図書館協議会」を平成29年4月1日付けで設置した。

公募委員を含め10人の委員で構成し、委員の任期は2年である。

会議は平成30年度3回開催し、平成29年度の事業計画の達成状況（図書館による内部評価結果）に対する外部評価をいただくとともに、平成30年度の取組状況、平成31年度（令和元年度）の事業計画案についても協議いただいたところである。

平成30年度の主な利用状況等

区 分	平成29年度	平成30年度
総 資 料 数	1,281,058 冊	1,303,989 冊
開 館 日 数	288 日	※285 日
入 館 者 数	278,498 人 (1日平均 967 人)	273,208 人 (1日平均 959 人)
新規利用登録者数	4,907 人	4,759 人
ホームページアクセス件数	498,343 件	406,413 件
個人貸出冊数	189,467 冊	185,388 冊
複写利用枚数	231,271 枚	204,704 枚
調査相談件数	16,723 件	16,940 件
マルチメディア利用者数	50,683 人	48,370 人
図書館等への貸出冊数		
・府内市町村立図書館等 (うち相互貸借)	45,238 冊 (21,700 冊)	37,068 冊 (22,779 冊)
(うち機関貸出)	(165 冊)	(527 冊)
(うち貸出文庫)	(23,373 冊)	(13,762 冊)
・他府県公立図書館・大学等	557 冊	465 冊
・学校図書室	22,993 冊	24,962 冊
(うち学校支援セット貸出)	(18,157 冊)	(19,617 冊)
(うち機関貸出)	(4,836 冊)	(5,345 冊)
子ども読書支援事業による貸出	787 冊	1,467 冊

※台風接近に伴う臨時休館(1日)除く

京都市との返却本お預かりサービス

区 分	平成29年度	平成30年度
	11月～3月	4月～3月
京都市の本を府で返却	572冊(115冊/月)	2,170冊(181冊/月)
府の本を京都市で返却	1,615冊(323冊/月)	6,550冊(546冊/月)

(平成29年11月試行開始。平成30年11月本格実施)

Ⅱ 図書館資料

1 総資料・年間収集資料

(1) 総資料数	1,303,989 冊
	うち図書 1,001,684 冊
	うち逐次刊行物（図書換算） 302,305 冊
(2) 年間収集資料数	図書（視聴覚資料を含む。） 19,351 冊
	逐次刊行物（購入分のみ） 383 タイトル

2 図書

(1) 資料数 (単位：冊)

区分	30年度受入冊数				30年度末資料数			
	購入	寄贈	その他		児童書	京都資料	外国語資料	
閲覧・貸出用	13,400	10,251	2,787	362	865,809	47,065	25,912	19,414
図書資料	12,974	9,978	2,643	353	840,342	47,065	25,912	19,414
視聴覚資料	426	273	144	9	25,467	0	0	0
貸出文庫等	5,951	5,835	89	27	135,875	92,117	0	0
合計	19,351	16,086	2,876	389	1,001,684	139,182	25,912	19,414

(注)外国語資料には、児童書及び京都資料の外国語資料を含む。

(2) 館内閲覧・個人貸出用図書の分類別数 (単位：冊・%)

分類	30年度末冊数	(百分比)
0 総記	42,055	(4.9)
1 哲学	43,335	(5.0)
2 歴史	93,516	(10.8)
3 社会科学	184,869	(21.4)
4 自然科学	54,302	(6.3)
5 技術	61,379	(7.1)
6 産業	45,149	(5.2)
7 芸術	62,883	(7.2)
8 言語	15,955	(1.8)
9 文学	165,284	(19.1)
小計	768,727	(88.8)
教科書	24,269	(2.8)
児童書	47,065	(5.4)
その他	25,748	(3.0)
合計	865,809	(100.0)

(3) 視聴覚資料・障害者用資料数

視聴覚資料

(単位：タイトル・点)

区 分	30年度末タイトル数 (点 数)	
C D	809	(950)
C D - R O M	1,565	(1,688)
D V D	2,502	(2,504)
D V D - R O M	454	(454)
ビ デ オ テ ー プ	3,172	(3,183)
カ セ ッ ト テ ー プ	882	(2,705)
マイクログフィルム	125	(8,771)
マイクログフィッシュ	402	(3,730)
デ イ ジ ー	1,482	(1,482)
合 計	11,393	(25,467)

障害者用資料

(単位：タイトル・点)

区 分	30年度末タイトル数 (点数)	摘 要
大 活 字 本	3,744 (3,744)	
点 字 図 書	22 (281)	
カ セ ッ ト テ ー プ	882 (2,705)	上の表の「カセットテープ」の再掲
デ イ ジ ー	1,482 (1,482)	上の表の「デイジー」の再掲
合 計	6,130 (8,212)	

3 逐次刊行物

(単位：タイトル)

区 分	30年度購入数	既存受入数
新 聞	18	110
雑 誌	365	10,660
合 計	383	10,770

Ⅲ 利 用 状 況

- 1 開 館 日 285 日
- 2 入 館 者 273,208 人 (1日平均 959 人)
- 3 新規利用登録者 4,759 人 有効登録者累計 125,832 人
- | | | |
|---|-------|--------|
| { | 京都市内 | 80.5 % |
| | その他府内 | 9.0 % |
| | 他府県 | 10.5 % |

4 ホームページアクセス 406,413 件

5 個人貸出 (利用者登録を行っている個人への貸出)

- (1) 貸出者数 延べ 75,327人 (1日平均 264 人)
- (2) 貸出図書数 185,388 冊 (1日平均 651 冊)
- (3) 借受提供数 (他の図書館等から資料を借り受けて利用者へ提供したもの)

(単位：冊)

借 受 先		借受冊数	摘 要
府内	市 町 村 立 図 書 館 等	1,178	地域別内訳は下表 (※)
府外	国 立 国 会 図 書 館	60	東京本館37、関西館20、国際子ども図書館3
	府 外 公 立 図 書 館	750	滋賀県立188 大阪府立81 兵庫県立32 奈良県立 24 和歌山県立37 他
	府 外 大 学 図 書 館 等	12	
	府 外 小 計	822	
合 計		2,000	

※市町村立図書館等の内訳 (単位：冊・%)

地 域 区 分	借受冊数 (百分比)
京 都 市	120 (10.2)
乙 訓 地 域	85 (7.2)
山 城 地 域	414 (35.2)
南 丹 地 域	91 (7.7)
中 丹 地 域	177 (15.0)
丹 後 地 域	234 (19.9)
そ の 他	57 (4.8)
合 計	1,178 (100.0)

6 複写利用

(単位：枚)

区 分	利用枚数	摘 要
図 書 資 料	177,743	白黒165,593、カラー12,150
CD-ROM、外部データベース	8,669	
マイクロフィルム	5,344	
国立国会図書館デジタル化資料	12,798	
遠 隔 地 複 写	150	遠隔地等の利用者（非来館者）に対して、当館所蔵資料の複写物を郵送するサービス
合 計	204,704	

7 調査相談等

(1) レファレンス

(単位：件)

区 分	件 数
調 査 相 談	16,608
マルチメディア相談	280
市町村・府立学校からの調査相談	52
合 計	16,940

(2) 他館紹介状発行

14 件

(3) 他館所蔵資料複写

190 件

8 障害のある方へのサービス

(1) 対面朗読サービス

(単位：人・時間)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
利用者数	5	4	4	5	4	4	4	4	4	4	7	9	58
利用時間	10	8	8	10	8	8	10	8	8	8	14	18	118

(2) 点字・音声資料貸出

(単位：点)

資料区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
テープ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C D	17	18	32	14	27	16	15	7	18	8	3	0	175
デイジー	54	48	49	43	50	64	52	46	60	33	41	42	582
合 計	71	66	81	57	77	80	67	53	78	41	44	42	757

(注)他館への協力貸出を含む。

(3) 視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」利用 (単位：件)

区 分	件 数
コンテンツダウンロード利用	632
オンラインリクエスト受信 (当館デジタル資料等の他館送付)	47
オンラインリクエスト送信 (他館デジタル資料等の借受提供)	61
合 計	740

9 マルチメディア利用 (単位：人)

利 用 区 分	利 用 者 数
インターネット閲覧端末	40,146
C D - R O M 閲覧端末	88
A V (映像・音声) ブース	3,387
外部データベース閲覧端末	3,318
マイクロフィルム閲覧端末	666
国立国会図書館デジタル化資料閲覧端末	765
合 計	48,370

10 図書館等への貸出

(1) 相互貸借 (単位：冊)

貸 出 先	貸出冊数	摘 要
府内市町村立図書館等	22,779	地域別内訳は下表 (※)
他府県公立図書館・大学等	465	
合 計	23,244	うち取寄せ申込みeサービスによる申込3,050

※市町村立図書館等の内訳 (単位：冊・%)

地 域 区 分	貸出冊数 (百分比)
京 都 市	2,881 (12.7)
乙 訓 地 域	2,303 (10.1)
山 城 地 域	6,853 (30.1)
南 丹 地 域	3,502 (15.4)
中 丹 地 域	4,224 (18.5)
丹 後 地 域	2,739 (12.0)
京都学・歴彩館、大学等	277 (1.2)
合 計	22,779 (100.0)

(注) 市町村立図書館等を経由し小中学校へ貸し出した学校支援セット等は含まない。

(2) 機関貸出 (単位：冊)

貸出先	貸出冊数	摘要
府の機関	402	議会図書館、総合教育センター等
その他	125	
合計	527	

(注) 学校への機関貸出は別掲

(3) 一括貸出 (貸出文庫) (単位：冊)

区分	貸出冊数	摘要
貸出文庫	13,762	8市町(組合)教育委員会、1府立学校

※貸出内訳 (単位：冊)

貸出先	冊数	貸出先	冊数	貸出先	冊数
大山崎町	1,123	福知山市	760	府立豊学校	250
相楽東部広域連合	1,781	宮津市	1,630		
南丹市	3,248	伊根町	2,000		
綾部市	1,700	京丹後市	1,270		

11 学校への貸出 (単位：冊)

区分	貸出冊数	
学校支援セット貸出	高等学校版	7,060
	市町(組合)立小中学校への貸出	100
	市町村立図書館への貸出	20
	府立高等学校への貸出	4,980
	府立特別支援学校への貸出	1,160
	総合教育センターへの貸出	800
	小中学校版	12,557
	市町(組合)立小中学校への貸出	7,749
	市町村立図書館への貸出	402
	府立高等学校への貸出	1,415
	府立特別支援学校への貸出	250
	総合教育センターへの貸出	2,741
小計	19,617	
機関貸出	市町(組合)立小中学校への貸出	24
	府立高等学校への貸出	4,965
	府立特別支援学校への貸出	350
	私立学校への貸出	6
	小計	5,345
合計	24,962	

(注) 学校支援のための学校以外への貸出を含む。

IV 事 業

1 市町村連携・市町村支援

京都府立図書館では、約130万冊の蔵書や各種のデータベースを揃え、府民の調査研究に役立つ資料や情報を提供することはもちろん、府立図書館と府内の市町村立図書館等の蔵書700万冊をインターネット上で瞬時に一括検索できる「京都府図書館総合目録」のシステムを構築するとともに、市町村立図書館等の利用者が必要とする図書等を搬送する「連絡協力車」を巡回運行することにより、南北に長い府内全域に均質な図書館サービスを提供するよう努めている。

連絡協力車は、全ての市町村立図書館等及び府立高等学校、府立盲学校・聾学校、連携する大学図書館、国立国会図書館関西館、府立京都学・歴彩館、京都ライトハウス情報ステーション、京都府議会図書館等を巡回している。

各図書館等の利用者は、システムで検索して見つけた他の図書館の図書を地元の図書館まで取り寄せて利用することができ、連絡協力車で運ばれるため送料の負担もない。府内のどこに住んでいても、地元の図書館で高度な図書館サービスを楽しむことができる環境の充実に向けて、取り組んでいる。

(1) 京都府図書館総合目録ネットワーク

京都府図書館総合目録ネットワーク（以下「K-Libnet」という。）とは、京都府内の公共図書館等の相互協力を推進するため、当館がセンター館となって運営するウェブアプリケーション「K-Libnetシステム」を基盤とし、資料の相互貸借及びそのための物流網（当館が運行する連絡協力車）を含むネットワーク全体のことをいう。

平成30年度末時点で、府立図書館、府立京都学・歴彩館、全ての市町村立図書館等、京都ライトハウス情報ステーション、連携する大学図書館及び全府立高等学校、盲学校及び聾学校がネットワークに参加している。

京都府図書館総合目録ネットワーク参加館の区分（平成29年4月改正規程）

区 分	摘 要	
A 参加館	K-Libnetシステム内の「京都府図書館総合目録」に自館の蔵書データを提供し、他の参加館と相互協力を行う館（すなわち、図書の所蔵データを「京都府図書館総合目録」で検索できる館）。 さらに、蔵書データの提供方法によって以下のとおり細分化する。	
	横断検索館	総合目録からの横断検索に対応し、リアルタイムで自館の蔵書データを提供する館
	データ提供館	総合目録に定期的に自館の蔵書データを直接送信して提供する館
	CiNii検索館	CiNiiBooksに参加し、総合目録からCiNiiBooksへの横断検索によって自館の蔵書データを提供する館
B 参加館	総合目録への自館の蔵書データの提供は行わないが、K-Libnetシステムを利用して他の参加館との相互協力を行う館	
C 参加館	府立の教育機関	

京都府図書館総合目録ネットワーク参加館一覧（平成30年度末）

図書館・読書施設等の名称	A参加館			B参加館	C参加館
	横断検索館	データ提供館	CiNii検索館		
1 府立図書館 [センター館]	○				
2 府立京都学・歴彩館	○				
3 京都市図書館(20館)	○				
4 向日市立図書館	○				
5 長岡京市立図書館	○				
6 大山崎町立中央公民館図書室		○			
7 宇治市中央図書館	○				
8 城陽市立図書館	○				
9 久御山町立図書館	○				
10 八幡市立八幡市民図書館	○				
11 京田辺市立中央図書館	○				
12 井手町図書館	○				
13 宇治田原町立図書館		○			
14 木津川市立中央図書館	○				
15 精華町立図書館	○				
16 笠置町中央公民館図書室				○	
17 和束町体験交流センター図書室				○	
18 南山城村図書室				○	
19 亀岡市立図書館中央館	○				
20 南丹市立中央図書館	○				
21 京丹波町中央公民館図書室等（3館）		○		○	
22 綾部市図書館	○				
23 福知山市立図書館中央館	○				
24 舞鶴市立図書館（2館）	○				
25 宮津市立図書館	○				
26 与謝野町立図書館（3館）	○				
27 伊根町コミュニティセンターほっと館図書情報室				○	
28 京丹後市立図書館（6館）	○				
29 京都ライトハウス情報ステーション				○	
30 京都学園大学図書館 （平成31年4月～京都先端科学大学図書館）		○			
31 京都教育大学附属図書館			○		
32 福知山公立大学メディアセンター			○		
33 佛教大学附属図書館			○		
34 京都府立医科大学附属図書館			○		
35 京都工芸繊維大学附属図書館			○		
36 京都府立大学附属図書館			○		
37 花園大学情報センター（図書館）			○		
～ 府立学校49校					
86 （全高等学校、盲学校及び聾学校）					○

(2) 連絡協力車

府内の市町村立図書館等との相互貸借図書の搬送や府立学校への図書の搬送等のため、毎週連絡協力車を運行している。

平成29年度に市町村立図書館等への巡回を週1回から週2回に拡充するとともに、京都市図書館との間では、双方の休館日を除く週5回、京都市のブックメール便が府立図書館に巡回されることとなった。

さらに、大学図書館との相互貸借サービスの拡大により、平成30年度には巡回する大学図書館は9館に増加したところであり、相互貸借による貸出は前年比増となっている。

連絡協力車の巡回機関（平成30年度）

区 分	摘 要
公立図書館等	市町村立図書館・読書施設（全26市町村）
大学図書館	京都学園大学図書館（平成31年4月～京都先端科学大学図書館）、京都大学附属図書館、京都教育大学附属図書館、福知山公立大学メディアセンター、佛教大学附属図書館、京都府立医科大学附属図書館、京都工芸繊維大学附属図書館、京都府立大学附属図書館、花園大学情報センター（図書館）
連携機関	国立国会図書館関西館、府立京都学・歴彩館、京都ライトハウス情報ステーション、京都府議会図書館
府立学校	府立学校49校（全高等学校、盲学校及び聾学校）

図書の搬送実績

（単位：冊）

区 分	搬送冊数	摘 要	
府内相互貸借	当館⇒市町村立図書館等	22,779	
	市町村立図書館等⇒当館	1,178	
	市町村立図書館等⇔市町村立図書館等	33,365	
府立学校機関貸出	当館⇒府立学校	5,315	
学校支援セット貸出	当館⇒府立学校・市町村立図書館等	19,617	直送を含む。
合 計		82,254	

(3) 図書館・読書施設等職員研修

府内の市町村立図書館等に勤務する職員の資質向上のため、研修を毎年度実施している。

平成30年度は、経験年数に応じたステップ別研修として、図書館間の相互協力に関する初任者研修を5月に、レファレンス研修（初級）を7月に実施し、計50名の参加があった。

また、平成30年度は市町村立図書館等に勤務する職員が一層研修に参加しやすくなるよう、京都府立図書館の職員が市町村立図書館等に直接出向く出前研修を試行で実施した。

府内の10市町村立図書館・読書施設から希望があり、9月に亀岡市立図書館中央館において図書館業務入門講習、10月に峰山地域公民館においてレファレンス講習、11月に八幡市立八幡市民図書館において本の修理に関する講習を開催し、会場の近隣の図書館等の職員も含めた54名の参加があった。

このほか、平成30年度は各市町村立図書館等の職員巡回を年4回実施し、意見交換と情報共有に努めた。

(4) 京都府図書館等連絡協議会

「京都府図書館等連絡協議会」（略称：京図連協^{きょうとれんきょう}）は、本府における図書館事業等の振興及び相互の協力を図ることを目的とする組織であり、全26市町村の図書館・読書施設をはじめとする府内の49施設で構成され、当館に事務局を置いている。

京図連協は、研修研究事業・相互協力事業・広報事業など、府内一円での図書館サービスの向上に向けた取組を毎年度実施しているほか、「京都図書館大会」の実行委員会に参画したり、京都府教育委員会と共催で「子ども読書本のしおりコンテスト」を開催したりするなど、他機関との連携にも努めている。

2 学校支援等

(1) 学校支援セット

「学校支援セット貸出」は、調べ学習や朝読書に役立つ図書を当館において整備し、環境や文化、仕事や防災等のジャンル・テーマごとに数十冊のセットにして府内の小・中学校及び府立学校に貸し出す取組で、平成20年度に開始した。毎年、セット内容の充実と利便性の向上に努めており、利用実績はここ6年で3倍以上の増加となっている。(貸出冊数はⅢ-11参照)。

平成29年度は、府立高校、盲学校、聾学校の申込みについて「京都府図書館総合目録ネットワーク (K-Libnet)」で行う方式を本格稼働させるとともに、小中学校版は平成29年3月に改訂された学習指導要領を踏まえ英語や情報処理に関するセットを追加するなど内容の充実と利便性の向上に努めた。

平成30年度は京都府総合教育センター及び同北部支所において支援セットを展示するとともに、京都府小学校教育研究会図書館教育部研究部会、京都府中学校教育研究会図書館教育部研究部会、京都府立高等学校図書館協議会司書部会、同協議会特別支援学校ブロックとも連携し充実に努めたところである。

更に、同センターの協力を得て、小中版、高校版ごとに、わかりやすい啓発パンフレットを作成するとともに、ホームページに本の背表紙の写真、対象学年等を掲載するなど大幅に改善したところである。

なお、学校の希望に応じて1冊単位で図書を貸し出す「機関貸出」についても、年々利用が増加している。

学校支援セットの内容

区 分	ジ ャ ン ル
高 校 版	環境／医療・福祉／教育／文化／社会／仕事／自然科学／芸術／ヤングアダルト／ミニ版セット／切り抜き速報
小中学校版	環境／古典／ことば・読み物／食育・健康／福祉・人権／国際理解／仕事／自然科学／防災／歴史・社会／国語教科書掲載作品／芸術・スポーツ／ヤングアダルト

(2) 来館型調べ学習等

府立図書館の学校支援事業の一環として、小・中学生、高校生、大学生、専門学校生の見学や「調べ学習 (探求型学習)」、府内の教職員の研修や市町 (組合) 教育委員会等の視察を受け入れている。

来館型調べ学習等の受入内容

主な対象	内 容 ・ ね ら い
小学生 中学生	【図書館見学】 府立図書館の閲覧室はもちろん自動化書庫等図書館内を案内し、約130万冊の蔵書規模を実感させるとともに、地元の図書館や学校図書館と府立図書館との役割分担について理解させる。
高校生 大学生 専門学校生	【調べ学習】 館内を見学し、図書館の利用法や資料の探し方の説明を受けた後、それぞれのテーマに沿って、府立図書館の資料を利用した調べ学習・探求型学習を行う。
教育委員会 教職員	【視察等】 府立図書館の学校支援制度の活用を促進するため、教員を対象とする講座等に場所を提供し、併せて館内見学を実施するほか、教育委員会の視察も受け入れている。

学校図書館の数十倍の規模の所蔵資料を使った調べ学習が可能のほか、図書館の基本的な利用方法や、データベースによる資料の探し方等も学ぶことができ、府立京都すばる高等学校をはじめ多くの学校や団体が来館した。とくに受入回数は、大学生が昨年度比4倍の12回来館するなど、昨年度比2.6倍の34回となり、人数比でも1.2倍の507人が来館した。

京都教育大学の学生が当館の所蔵する約2万4千冊の教科書コレクションを使って研究した成果を当館エントランスで展示する取組も、引き続き実施した。小学4年生の国語の教科書に掲載されている「ごんぎつね」について、教科書の発行年代ごとの表記や注釈等の違いがまとめられており、各世代の来館者の興味を引いた。

来館型調べ学習等の受入実績

区 分	小・中学生	高校生	大学生	専門学校生	教職員等	合 計
回／人	2回 91人	5回 128人	12回 133人	1回 74人	14回 81人	34回 507人

(3) 子どもへの読書活動支援事業

様々な課題（生活困窮世帯・ひとり親家庭等）を抱える子どもが夢や希望を持って成長していけるように、府立図書館が所蔵している子ども向けの図書約7万冊を、京都府健康福祉部所管の「きょうとこどもの城づくり事業」の支援を受けて「こどもの居場所づくり」や「子ども食堂」に取り組む団体に貸し出す事業を平成29年11月から開始した。

1回あたり100冊まで最長6箇月間借りることができ、送料も府立図書館が負担する。近畿の府県立図書館においては初の取組であり、平成30年度は13団体に1,467冊を貸し出した。

3 調査研究・課題解決支援及び情報発信

(1) 大学連携

大学が所蔵する専門的な資料を府民が地元の図書館でより容易に閲覧できるように、府内の大学図書館と公共図書館との間で、京都府図書館総合目録ネットワーク（総合目録及び連絡協力車）を活用した所蔵資料の相互貸借サービスを順次拡大している。

平成30年度末までに下表の9大学との相互貸借サービスを行っており、今後も大学図書館との連携の拡充を図ることとしている。

府内の大学図書館との相互貸借の実施状況（平成31年4月1日現在）

大学図書館名	開始時期等
京都学園大学図書館	(従前)
京都大学附属図書館	平成28年7月 相互貸借試行開始 平成29年10月 協定締結（本格実施）
京都教育大学附属図書館	平成29年3月 協定締結 平成29年4月 相互貸借開始
福知山公立大学メディアセンター	平成29年6月 相互貸借試行開始 平成30年4月 協定締結（本格実施）
佛教大学附属図書館	平成29年9月 相互貸借試行開始 平成30年4月 協定締結（本格実施）
京都府立医科大学附属図書館	平成30年2月 相互貸借試行開始 平成30年4月 協定締結（本格実施）
京都工芸繊維大学附属図書館	平成30年10月 協定締結（本格実施）
京都府立大学附属図書館	平成31年3月 相互貸借試行開始 平成31年4月 協定締結（本格実施）
花園大学情報センター（図書館）	平成31年3月 相互貸借試行開始

<京都図書館総合目録ネットワークを活用した相互貸借サービスのメリット>

- ・ 府立図書館のホームページから府内公共図書館だけでなく連携する大学図書館の所蔵資料も一括検索できる。
- ・ 府民が、大学図書館の所蔵資料を居住地に近い公共図書館に取り寄せて閲覧することができる。
- ・ 大学の学生や教職員等が、公共図書館の所蔵資料（地域の郷土資料、専門書の多い大学図書館には所蔵されていない一般書等）を大学図書館の窓口で借りることができる。
- ・ 府立図書館が運行する連絡協力車を活用することにより、資料の送料が不要となる。

(2) 図書館サービスにかかる利便性の向上

平成29年11月に試行開始した京都市図書館との本の相互返却サービスを、平成30年11月に「京都市図書館との返却本お預かりサービス」として本格実施し、返却にかかる利便性の向上に努めた。府立図書館で借りた図書を京都市図書館（20館）を通じて、京都市図書館で借りた図書を府立図書館を通じて返却できるもので、双方の休館日における返却に加え、借りた本を身近な図書館に返却できるなど、平成30年度の利用は前年度と比べ月平均で60%以上の増となった。

(3) 館内見学会

毎月第3水曜日の午後2時から定期的に行っている「館内見学会」では、①「関西近代建築の父」と呼ばれ京都市役所や同志社大学も手がけた武田五一により設計された旧館の外壁や外階段を保存修理して新館への建替を進めたこと、②都道府県立図書館では当館が初めて導入した自動化書庫と地下2階4層からなる電動積層集密書庫に、開架資料の10倍以上の膨大な資料を収めていること、③書庫の資料の中には、教科書や映画のシナリオなどのコレクションも含まれていること、④当館は、来館者向けサービスの他に、市町村立図書館等や学校への支援を行っていることなどを案内している。

平成30年度は、12回の見学会に166人が参加され、府立図書館を初めて利用された方が46名となるなど、利用機会の拡大にもつながっている。

参加者からは、普段は見るできない図書館のバックヤードや自動化書庫等の見学を通じて「書庫の大きさと設備に驚いた」「市町村支援や学校支援に関して府立図書館の役割や資

料を届けるしくみがよくわかった」「様々な調べ物ツールがあることがわかった。是非活用してみたい」などの感想が多く寄せられている。

(4) 図書館活用講座

平成30年度は、歴史上の著名人の記念日、タイムリーな出来事や健康に関することなどをテーマに設定し、講演に加えてワークショップやデータベース体験、周辺の建物見学の実施など知的好奇心をくすぐる参加・体験型の講座とした。

更には、開催日もこれまでの平日開催から、土曜日、日曜日、祝日での実施とし、前年比2回増の15回開催した結果、参加者も昨年度の2.2倍となった。

○ 「図書館活用講座」の実施状況（平成30年度）

開催日	内 容
4/21 (土)	DVD上映会 「世紀末からのメッセージ ギュスターブ・モロー/クリムト」
5/12 (土)	講演及び見学 有斐斎弘道館連携講座「信仰からみる京都～崇徳天皇～」及び成勝寺跡地の見学（講師：有斐斎弘道館から4名）
6/30 (土)	音楽データベース体験 ナクソス・ミュージック・ライブラリーで聴くドビュッシー音楽会
7/22 (日)	実演及びワークショップ 京菓子をデザインしてみよう 講師：有斐斎弘道館 太田 達 氏
8/12 (日)	DVD上映会 「歴史秘話ヒストリア【幕末編】西郷隆盛 西郷隆盛のマイペース人生 のほほんど大胆にいきましょう」 講演及び音楽鑑賞 レクチャー 「ドビュッシーとエンマ・バルダックをめぐる音楽」（講師：京都コンサートホール・高野 裕子 氏）及び音楽鑑賞（ナクソス・ミュージック・ライブラリー）
8/19 (日)	講演及び俳句体験 「初めての俳句」 講師：名村 早智子 氏（俳人協会会員）
9/29 (土)	DVD上映会 「東山魁夷～美の世界シリーズ～ 第4巻 京洛四季 一期一会の京都連作」「美の巨人たち 1 静謐なる風景画の世界 東山魁夷・奥村土牛」 講演及びワークショップ 「トーク『名画の読み方～目から鱗の西洋絵画入門～』&ワークショップ」 講師：平松 洋氏（キュレーター、美術評論家）
10/20 (土)	講演及び見学 講演「岡崎周辺 武田五一の建築巡り」 見学 府立図書館、有鄰館（外観）、関西美術院（外観） 白河院 講師：川島 智生氏（京都華頂大学教授）

開催日	内 容
11/23 (金祝)	DVD上映会 「リュミエール！」 講演及び医学論文データベース体験 「『がん』を正しく知ろう」 講師：渡邊 能行 氏 (京都府立医科大学大学院医学研究科地域保健医療福祉行政システム学 教授)
1/6 (日)	ワークショップ (ブックカバー制作) 図書館活用講座「藤田嗣治挿絵紹介+ワークショップ」 当館所蔵資料から、1930～1940年代に日本で出版された藤田嗣治の挿絵や表紙絵約100点をスライドショーで紹介後、ワークショップでブックカバーを作成。
3/10 (日)	DVD上映会 DVD「100年インタビュー やなせたかし」 講演及びワークショップ 「新聞の作り手の視点」 講師：林屋 祐子 氏 (京都新聞社メディア局読者交流センター長代理) 関連図書紹介 府立図書館職員による関連図書の紹介

延べ参加者数 371名

(5) 講演会等

多くの方々に府立図書館を知ってもらい、広く利用していただくことを目的に平成28年度から「府立図書館連続講座」を開催している。

京都で研究や社会活動に携わっておられる方々に御自身の研究や本との関わりなど、様々な角度から語っていただく講座であり、講師のおすすめ本や、講演のテーマに沿った図書を司書がセレクトして当日会場で展示するなど図書館機能を活用した講演会であり、平成30年度は8回に拡充して実施した。

○「府立図書館連続講座」の実施状況（平成30年度）

開催日	講 師 及 び 演 題
4/29 (日)	竹宮 恵子 氏 (京都精華大学 教授) 「『私の物語はあなたの物語になる』～日本のマンガの不思議な力～」
5/27 (日)	佐々木 閑 氏 (花園大学文学部 教授) 「仏教を学ぶことの意味」
6/17 (日)	並木 誠士 氏 (京都工芸繊維大学 教授) 「織田信長・豊臣秀吉と初期風俗画」
7/14 (土)	土井 隆雄 氏 (京都大学宇宙総合学研究ユニット 特定教授 宇宙飛行士) 「日本の有人宇宙活動」
9/9 (日)	宗田 好史 氏 (京都府立大学 副学長 京都和食文化研究センター長) 「歴史都市のつくり方 –イタリヤ都市から京都へ」
10/14 (日)	山村 亜希 氏 (京都大学大学院人間・環境学研究科 准教授) 「地図と景観から歴史を読む」

開催日	講 師 及 び 演 題
11/11 (日)	荒木 浩 氏 (国際日本文化研究センター 教授) 【古典の日記念事業】 「月の文学史点描 一道長の望月、兼好の有明、煙にむせぶ近代の月一」
12/9 (日)	中嶋 節子 氏 (京都大学大学院人間・環境学研究科 教授) 「京都の近代と都市景観」

延べ参加者数 734名

アンケートの結果から、市町村立図書館等で配布されたチラシや府民だより、地下鉄のポスター、インターネット上の情報等を見て参加されており、毎回好評を博しているところであり、参加者が前年度の1.5倍となった。

京都岡崎魅力づくり推進協議会との連携事業について、昨年度から実施している「岡崎プロムナード・星の饗宴」にあわせた夜間イベント「音の図書館」を今年度も引き続き開催した。図書館閉館後、前庭において府立鳥羽高等学校吹奏楽部による演奏会を行うとともに、館内地下フロアにおいて内田 奈織氏によるハープ演奏を開催した。このイベントにおいても、奏者や演奏曲に関連する図書を展示するとともに、参加者には特別に図書館カードの作成や図書の貸出を行うなど、図書館ならではの取組を行ったところである。

更に「京都岡崎ハレ舞台」では、同様に閉館後、前庭にて府立洛西高等学校・府立菟道高等学校の各書道部による書道パフォーマンスを初めて実施した。撮影した動画を1か月間エンタランスで上映するなど、岡崎地区全体の事業の盛り上げにも貢献した。

○ その他の主なイベント・講座の実施状況（平成30年度）

開催日	実 施 内 容	参加者数
8/11 (土祝)	岡崎プロムナード 星の饗宴連携企画「音の図書館」 ・野外演奏会（府立鳥羽高等学校吹奏楽部） ・内田奈織 星に願いを～きらめきのハープ～	約250人 80人(応募139人)
9/15 (土)	京都岡崎ハレ舞台連携企画 「書道パフォーマンス」 府立菟道高等学校書道部及び府立洛西高等学校書道部	約300人
毎月第3 水曜日	館内見学会（年11回（蔵書点検の2月を除く。））	166人

岡崎での開館110周年記念事業

平成31（2019）年は、京都府立図書館が岡崎の地に移転・開館して110周年になることから、明治42（1909）年2月2日に竣工したことを記念した展示会や講演会を実施するなど、府立図書館の利用促進に努めた。

開催日	実施内容	参加者数
2/2(土)～ 2/24(日)	「京都府立図書館 岡崎110年」と題したナレッジベース における展示会 ◆当館建築に関わる大森知事の趣意書 ◆旧館時の家具 ◆解説パネル等	700人
2/3(日)	記念講演 講師 国際日本文化研究センター教授 井上章一 氏 演題 「京都と近代」	応募247人 当選120人
1/8(火)～ 3/27(水)	エントランス展示「京都府立図書館のあゆみ(1)」 ◆集書院の開設から岡崎に移転後の1910年代まで、写真を中心に振り返る	—
3/29(金)～ 翌5/22(水)	エントランス展示「京都府立図書館のあゆみ(2)」 ◆岡崎とともにあった1910年代から現在までを、写真を中心に振り返る	—
2/2(土)発行	記念パンフレット「岡崎110年 京都府立図書館」 ◆5,000部	—

(6) 資料展示

「思いがけない本との出会い」を演出するため、京都に関することや季節の話題、時事問題等をテーマとして関連する当館の所蔵資料を一箇所に集めた展示を、通年にわたり実施した。

作成したブックリストは展示終了後も館内やホームページで提供し、レファレンス等にも活かしている（平成30年度の展示実績は下表のとおり（年度をまたぐ展示を含む。））。

所蔵資料テーマ展示

展 示 タ イ ト ル	時 期	協力機関・関連イベント等
1 階 コ ー ナ ー		
足もとに眠る京都◇	3月～6月	協力：京都大学総合博物館 京都市考古資料館
日本の色	5月	
自分から地域から始めるエコ活動	6月	環境の日(6月5日) 環境月間(6月)
書道とフミ	7月～8月	
京の魔界	8月	
魅了する月	9月	
日本キリスト教宣教史と祈りのかたち	10月～11月	
祝 京都観世会館60周年記念	10月	
叢書ってどんなもの？	11月～12月	
明治150年 幕末維新それぞれの大義と倫理	11月～12月	
忠臣蔵	12月	
冬のスポーツ	1月～2月	
英語で日本を紹介する本	3月～4月	

展 示 タ イ ト ル	時 期	協力機関・関連イベント等
1 階 展 示 ケ ー ス		
切手趣味週間	3月～4月	
120年前の京都府立図書館	4月～6月	
七夕に想いをはせて	6月～8月	京都岡崎魅力づくり推進協議会「京の七夕 岡崎プロムナード 星の饗宴」
秋の七草今昔	8月～10月	
生誕900年平清盛の姿	10月～12月	
平成の始まりをふりかえる	1月～2月	
世界の絵本作家と挿画	3月～4月	絵本週間 (3/27～4/9) 国際子どもの本の日 (4/2) 子ども読書の日 (4/23)
地 下 1 階 特 設 コ ー ナ ー 展 示		
日本の住宅建築	3月～5月	
京都岡崎のモニュメント巡り	5月～7月	
図鑑で発見!	7月～9月	
西行の世界	9月～11月	
経済の名著とその周辺	11月～1月	
銭湯を読もう	1月～3月	
レオナルド・ダ・ヴィンチ没後500年	3月～5月	
ミ ニ コ ー ナ ー		
春の特別展・特別公開	3月～5月	
クリムト没後100年特集◇	3月～5月	
明治150年展 明治の日本画と工芸	3月～5月	京都国立近代美術館展覧会
カンヌ国際映画祭 パルム・ドール賞受賞 是枝裕和監督特集	5月～6月	
5人の現代アメリカ文学作家	6月～7月	
横山大観	6月～7月	京都国立近代美術館展覧会
音の図書館	8月	京都岡崎魅力づくり推進協議会「岡崎プロムナード 星の饗宴」
東山魁夷	9月～10月	京都国立近代美術館展覧会
ノーベル賞化学者を育んだ教室	10月～12月	
川端康成ノーベル文学賞50年	10月～11月	京都大学総合博物館企画展
1970年大阪万博	11月～1月	2025年国際博覧会（万博）の 大阪での開催決定
梅原猛さんを偲んで	1月～2月	
井上章一先生ご著書	2月	
2019年プリツカー賞受賞 磯崎 新	3月	
聞こえの共生社会	3月～5月	

展 示 タ イ ト ル	時 期	協力機関・関連イベント等
館長プロデュース連続講座コーナー		
私の物語はあなたの物語になる	4月～5月	
仏教を学ぶことの意味	5月～7月	
織田信長 豊臣秀吉と風俗画	6月～7月	
日本の有人宇宙活動	7月～8月	
歴史都市のつくり方 伊弉ノから京都へ	9月～10月	
地図と景観から歴史を読む	10月～11月	
月の文学史	11月～12月	
京都の近代と歴史景観	12月	
エントランス展示		
足もとに眠る京都◇	3月～6月	
クリムト没後100年特集◇	3月～5月	
ドビュッシー	5月～7月	
京都の御大礼・武田五一	8月～10月	
新聞データベースで知る京都府の災害	9月	
藤田嗣治	10月～1月	
京都府立図書館のあゆみ (1)	1月～3月	
京都府立図書館のあゆみ (2)	3月～5月	
注) その他の展示と連動したエントランス展示は、表中◇で表示		

(7) 「知的な交流の場の創設」に向けた取組

知的な交流の場としての活動拠点として、平成29年度に2階会議室を「ナレッジベース」と名付け運用を開始したところであり、府立図書館では、様々な機関との連携を積極的に推進している。

特に、サービス計画に掲げる「知的な交流の場の創設」に関連して、情報の拠点としての図書館ならではの強み（豊富な図書資料・データベース等と、司書の専門性を活かしたレファレンス等）を活かして、岡崎魅力づくり推進協議会、公的機関、NPO等と連携した取組を実施した。

主な取組 (30年度)

<ul style="list-style-type: none"> ・展示会「京都府立図書館 岡崎110年」(平成31年2月) ・京都府立図書館・日本政策金融公庫共催企画 セミナー・起業相談会 セミナー(平成30年7月) 起業相談会(平成30年7月、8月、9月、平成31年2月) ・公共図書館と連携し適切な情報をみつけだす活動を行うチームシラベル企画会議 (平成30年4月) ・岡崎ときあかりannex2018 クリエイターワークショップ・プロジェクトマップ ング入門講座(平成30年7月、8月) ・なんでもない地図を語る会(平成30年11月 NPO主催) ・幕末京都オープンデータソン (平成30年12月 諸国・浪漫オープンデータソン実行委員会主催)

(8) 地域連携

京都有数の観光地である岡崎に立地する当館は、「京都岡崎魅力づくり推進協議会」に加盟して近隣の文化施設等と連携した様々な取組を展開するとともに、館内には近隣施設のチラシを配架し、観光情報コーナーを設置している。特に、近接する京都国立近代美術館等については、主な展覧会の時期に合わせて所蔵資料テーマ展示（前項参照）を行っているほか、過去の図録を集めたコーナーも設置している。

平成30年度も同協議会の主催する数々のイベントに参画・協力したほか、ロームシアター京都を運営する公益財団法人京都市音楽芸術振興財団等が主催する6月の芸術イベント「OKAZAKI LOOPS」では、昨年に引き続き当館の地下閲覧室を会場としたコンサートの開催に協力した。

8月に実施された「岡崎プロムナード・星の饗宴」にあわせた夜間イベント「音の図書館」を今年度も引き続き開催した。図書館閉館後、前庭において府立鳥羽高等学校吹奏楽部による演奏会を行うとともに、館内地下フロアにおいて内田 奈織氏によるハープ演奏を開催した。奏者や演奏曲に関連する図書を展示するとともに、参加者には特別に図書館カードの作成や図書の貸出など、図書館ならではの取組を行ったところである。

更に9月に実施された「京都岡崎ハレ舞台」では、府立洛西高等学校・府立菟道高等学校の各書道部による書道パフォーマンスを初めて実施した。撮影した動画を1か月間エンタランスで上映するなど、岡崎地区全体の事業の盛り上げにも貢献した。

(9) 行政支援サービス

平成30年度から京都府の各課・室・京都府総合教育センター及び同北部研修所への資料の貸出を行う行政支援サービスを開始したところである。連絡協力車を活用して京都府庁内の各課・室は京都府議会図書館を窓口として資料を届けるとともに京都府総合教育センター及び同北部研修所へは直送しており、8組織から402冊の利用があった。

(10) 広報

当館は明治の面影を残す「歴史ある図書館」として知られており、平成30年度も地元紙や京都市内の全世帯に配付されるフリーペーパー、NHK京都やKBS京都に加え、タウン誌「京都：コロム」に館長と有斐斎弘道館館長との対談記事が掲載されるなど、数々の媒体に取り上げられた。

他方、サービス計画の3年目にあたり、新規事業についてはプレス資料配付やラジオ放送等積極的に広報を行うとともに、平成29年9月から開始した「子どもへの読書活動支援事業」や岡崎での開館110周年記念事業の案内をはじめ、連続講座や活用講座等について、ラジオの生放送に職員が出演するなど周知に努めた。

当館のホームページにおいては、お知らせ欄を年間150回以上更新して、新規の取組やイベントの開催、図書館資料の紹介等のお知らせのほか、学校の視察や調べ学習等についても広報に努めた。

V 施 設 等

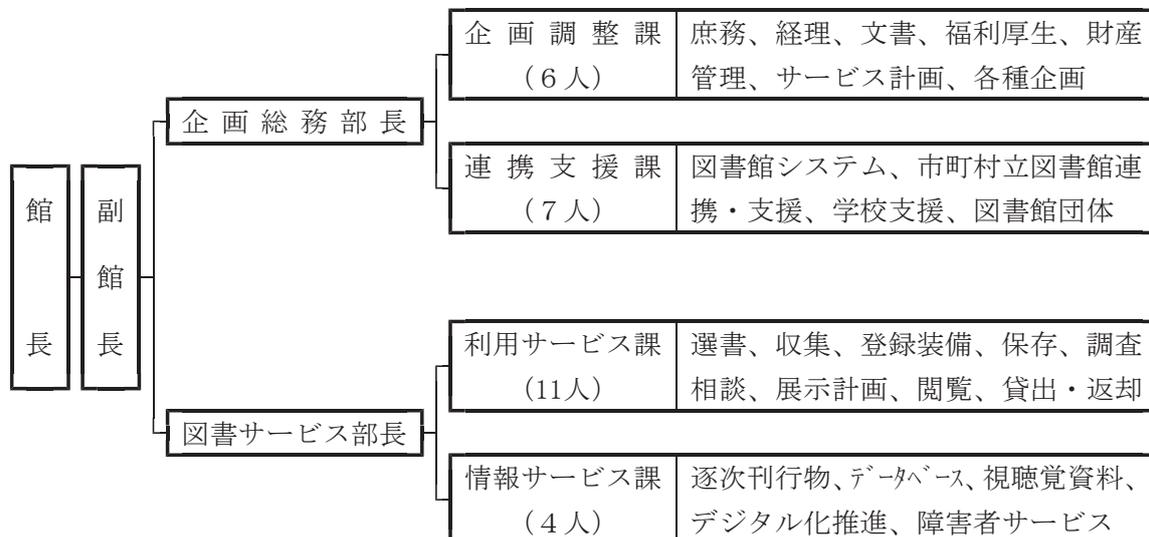
1 施設及び設備等

項 目	摘 要
所 在 地 等	〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町71番地 (平成28年9月30日改正条例公布、平成29年4月1日施行) TEL : 075-762-4655 FAX : 075-762-4653 ホームページ : http://www.library.pref.kyoto.jp/
開 館 日	平成13年5月11日 (建替による新館開館。府立図書館設置は明治31年)
建 築 費	617,415万円 (外構工事・設備・家具等を含む。)
収 蔵 規 模	約150万冊 (平成30年度末資料数 約130万冊) ・書架 (1,710㎡) 約10万冊 ・書庫 (1,776㎡) 電動積層集密書庫 約100万冊 ・書庫 (1,776㎡) 自動化書庫 約40万冊
利用者用端末 (平成31年4月現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書検索 当館蔵書検索用端末 (OPAC) 14台、他館蔵書検索用端末6台 ・データベース データベース閲覧端末9台、新聞記事データベース閲覧端末5台、 新聞デジタル版閲覧端末4台、CD-ROM閲覧端末2台 ・国会デジタル 国立国会図書館デジタル化資料送信サービス閲覧端末3台 ・インターネット インターネット閲覧端末18台、インターネット等閲覧申込用端末2台 ・その他マルチメディア等 マイクロフィルム閲覧端末3台、映像ブース8台、音声ブース4台 障害者サービス用端末3台
開 館 時 間	火曜日～金曜日：午前9時30分～午後7時 土・日曜日、祝日：午前9時30分～午後5時
休 館 日	月曜日 (祝日及び振替休日は開館、翌日が休館) 毎月第4木曜日 (祝日は開館) 年末年始、特別整理期間

2 組織 <平成31年4月1日現在>

常勤職員 31人（常勤再任用1人を含む。）

非常勤職員 18人（館長1人・嘱託職員16人・臨時職員1人）



3 経費

(単位：千円)

科目	事項	30年度決算額	摘要
図書館費	人件費	275,446	
	資料費	49,168	図書43,269、逐次刊行物5,899
	事業費	170,871	
	小計	495,485	
図書館費外	人件費	3,699	
	事業費	514	
	小計	4,213	事務局費/教育連絡調整費
合計		499,698	

VI 沿革

1 年表

明治31年(1898) 4月	府立京都図書館御苑内創立	昭和26年(1951) 9月	本館大閲覧室屋根修理着工休館
" 6月	業務開始	" 10月	本館蔵書一部知恩院倉庫に別置
33年(1900)	夜間開館開始	" 11月	本館大閲覧室安全開架式化
36年(1903)10月	巡回図書館(貸出文庫)制度開始(昭和25年3月廃止)	" 12月	本館新体制で開館
38年(1905) 4月	児童室開設(大正14年3月閉鎖)	27年(1952) 6月	本館読書相談係設置
39年(1906) 6月	館外貸与規則制定告示	" 7月	園部地方分館開館(園部町立図書館内、昭和41年11月閉館)
" 11月	新館起工式		北桑田地方分館開館(京北町下中、昭和54年8月(京北農業協同組合弓削支所内)仮移転、同55年3月閉館)
42年(1909) 2月	新館竣工		木津地方分館開館(旧役場内、昭和29年7月(木津小学校内)、同38年5月(町民センター内)移転、同50年3月閉館)
" 3月	京都府立京都図書館規則告示	28年(1953) 4月	本館月曜日休館を実施
" 4月	新館開館	29年(1954) 2月	伏見分館新築工事着工
大正 8年(1919) 1月	本館図書分類目録編纂に着手	" 9月	京都府立図書館「善本目録」作製
11年(1922) 4月	貸出文庫を増設	30年(1955) 9月	青年学級文庫実施
昭和 3年(1928) 3月	帯出規程告示	32年(1957) 6月	中京分館(河原町分館改称)開館(烏丸庁舎内、昭和40年1月(京一商同窓会館)仮移転、同40年11月(京都府中京庁舎内)移転、平成13年3月閉館)
" 4月	個人貸出実施	35年(1960)10月	中京分館館外貸出実施
" 6月	和漢図書分類目録分類表12冊作製	38年(1963) 3月	本館読書相談係・学生自由閲覧室・貸出文庫閉鎖、蔵書の一部を府立総合資料館へ移管
8年(1933)10月	京都府中央図書館に指定	" 11月	本館日曜・土曜午後・夜間休館
16年(1941) 5月	児童室復活開室(昭和23年4月元貴賓室に移転)	" 12月	児童室土・日曜休室
22年(1947) 8月	館外貸出廃止	39年(1964) 1月	本館外装改修工事
23年(1948) 9月	読書ルーム開設(河原町丸善京都店地下)	" 5月	本館夜間・土曜午後再開(9時まで)、貸出室設置
24年(1949) 4月	読書相談開始		児童室館外貸出実施、土曜日開室
" 6月	河原町分館開館(河原町丸善京都店地下、昭和31年9月閉館)		伏見分館館外貸出実施
25年(1950) 2月	伏見分館開館(伏見信用金庫2階、昭和29年7月移転、同63年3月閉館)	" 7月	市内分館日曜日休館
" 6月	宮津地方分館開館(宮津町役場内、昭和28年4月(宮津市図書館内)、同32年10月(労働センター内)、同39年5月(宮津市立図書館内)、同46年8月(新宮津市立図書館内)移転、平成9年3月閉館)	40年(1965) 7月	児童室に母親文庫設置
" 7月	綾部地方分館開館(綾部市立図書館内、昭和38年7月(市民センター内)移転、同41年9月閉館)	" 9月	京都府教育委員会基本規則一部改正
	峰山地方分館開館(奥丹後地方教育局内、昭和30年6月(丹波公民館内)、同37年9月(丹波小学校内)、同55年4月(峰山町中央公民館内)移転、平成9年3月閉館)		教育庁係等設置規程一部改正により課制施行
" 8月	学生自由閲覧室新設	41年(1966)11月	自動車文庫命名式(蛭川知事「あゆみ号」と命名)
" 11月	京都府立図書館設置条例公布(条例第62号)		移動図書館事業開始(平成2年12月終了)
昭和26年(1951) 4月	上京分館開館(北区紫郊会館内、昭和31年5月(桜谷文庫内)移転、同51年5月閉館)	42年(1967) 7月	本館修繕工事
		" 9月	貸出室移転再開

昭和44年(1969)12月	本館夜間閉館時間を7時に変更	平成 2年(1990) 3月	「点字・録音図書目録(点字版)」刊行
46年(1971) 8月	本館貸出室の図書を閲覧室に統合、第2閲覧室開室 貸出方式をブラウン方式に切替	〃 4月	連絡協力車事業本格実施
48年(1973) 4月	上京分館外貸出実施	〃 6月	機構改正により本館は4課組織に
50年(1975) 3月	身体障害者用便所・スロープ新設	3年(1991) 3月	本館模様替内装工事(受付カウンター・新聞雑誌室等配置換)
〃 5月	本館(閲覧室・中央カウンター・新聞雑誌室開設)内装工事 本館閲覧室を完全開架式に切替	〃 6月	マイクロリーダープリンターのサービス開始
51年(1976) 4月	本館閲覧用目録作成に着手	〃 8月	「連絡協力車だより」発刊
〃 6月	京都府図書館等連絡協議会発足、府立図書館に事務局を置く	4年(1992) 9月	毎月第2土曜日 児童室 午前9時半から開室開始
〃 7月	児童室改修工事	5年(1993) 3月	「京都府の公共図書館 1992年版」刊行
53年(1978) 3月	本館改修工事(外装・屋根葺替・玄関・防災設備) 本館閲覧用目録整備完了	6年(1994) 3月	「京都府公共図書館等所蔵雑誌・新聞総合目録」を京都府図書館等連絡協議会、京都府立総合資料館と共同刊行
54年(1979) 3月	本館書庫改修工事	7年(1995) 2月	阪神・淡路大震災(1月17日)による本館一部被害の補修・補強工事実施
〃 4月	国会図書館からの図書貸出制度発足 本館自習室閉鎖	〃 5月	本館老朽化による安全対策のため館内模様替え(事務室の1階への移動等)実施。5月1日から2箇月間臨時休館(7月3日再開館)
〃 11月	「専門情報機関要覧」刊行	〃 8月	連絡協力車北部コースの運行を月2回に拡充(全市町村月2回運行)
56年(1981) 9月	移動図書館用電動集密書架設置	〃 9月	一般図書室の天井一部損傷による補修工事実施。9月18日から臨時休館(10月16日再開館)
〃 12月	伏見分館改修工事	〃 12月	京都府社会教育委員会が京都府教育委員会教育長に「生涯学習社会を展望する京都府の図書館の在り方について(提言)」を提出
57年(1982) 7月	障害者サービス(対面朗読)実施	8年(1996) 3月	平成8年度当初予算に府立図書館整備費を計上
58年(1983) 2月	生涯教育推進事業として読書推進講座実施	〃 9月	新府立図書館建設基本計画の概要を発表 9月補正予算に基本設計費等を計上
〃 3月	「京都府の公共図書館」刊行 伏見分館ブックポスト設置	9年(1997) 3月	平成9年度当初予算に実施設計費等を計上
〃 6月	図書館協力貸出本格実施	〃 4月	新館整備のため本館を休館
〃 7月	新着図書案内発行	〃 9月	本館仮施設(京都市下京区、旧中小企業総合指導所)へ移転完了
59年(1984)12月	連絡協力車試験的運行開始(2コース)	10年(1998) 3月	府立図書館解体工事及び壁面(東側前面)保存工事完了 平成10年度当初予算に新館建設工事費等を計上
60年(1985) 7月	国立国会図書館とのオンライン利用実験実施	〃 7月	総合資料館蔵書との一体的データ化作業開始
61年(1986) 8月	京都府教育委員会教育長から「生涯学習社会を展望する京都府の図書館のあり方」を京都府社会教育委員会へ諮問		
〃 12月	昭和61年度全国公共図書館参考事務研究集会開催		
62年(1987)10月	国立国会図書館とオンライン実施		
63年(1988) 3月	「京都府の公共図書館1987年版」刊行		
〃 10月	図書館資料広域貸出事業開始 「京都府公共図書館等所蔵雑誌・新聞総合目録」を京都府図書館等連絡協議会と共同刊行		

平成10年(1998) 9月	本館事務室の再移転(旧中小企業総合指導所から隣接の旧女子高等技術専門校へ)	平成21年(2009) 3月	所蔵音声資料の音声目録CD-ROM(デジ版)作成、配布
" 11月	新府立図書館新築工事起工式	" 6月	府立図書館「岡崎」100周年記念事業(小展示・パネル展等)開催(~22年3月)
11年(1999) 2月	平成10年度近畿地区公共図書館研修開催	" 9月	府立図書館「岡崎」100周年記念パンフレット作成
" 3月	平成11年度当初予算に新築工事費等計上	" 11月	国立国会図書館関西館との連携(連絡協力車の運行)
" 6月	「日本目録規則1987年版改訂版」「日本十進分類法新訂9版」「日本著者記号表改訂版」採用	22年(2010) 4月	学校支援セット貸出小中用CD-ROM目録を作成、配付
12年(2000) 3月	平成12年度当初予算に新築工事費等計上	" 9月	京都府立医科大学附属図書館と連携した府民講演会開催
" 5月	国立国会図書館総合目録ネットワーク参加	" 10月	新着図書お知らせサービス開始
" 10月	新館竣工	23年(2011) 4月	祝日開館を実施
" 11月	仮施設から新館に移転、開館準備作業本格化	" 8月	学校支援ポータルサイト開設
" 11月	「京都府図書館総合目録ネットワーク運営規程」施行(1日)	" 12月	館内全面禁煙の実施
13年(2001) 2月	仮施設及び府立総合資料館からの図書資料移転終了	" 12月	京都大学研究者等と連携したサイエンスイベント開催
" 4月	機構改正により2課制(総務課:2係、資料課:4担当)施行	24年(2012) 4月	子ども読書本のしおりコンテスト実施
" 4月	京都府立図書館の管理運営に関する規則(平成13年京都府教育委員会規則第1号)施行	" 8月	府立図書館サービス計画策定
" 5月	京都府立図書館個人貸出規程等、各種規程施行	" 11月	図書館活用講座実施
" 5月	開館式	25年(2013) 3月	府立図書館のシンボルマークと和文ロゴタイプ作成
" 5月	京都府図書館総合目録ネットワークのインターネット発信開始	" 7月	24年度図書館評価(試行)を社会教育委員会議で報告
" 5月	一般開館	" 9月	学校支援セットの府立高校(非巡回校)への直送実施
" 6月	連絡協力車の毎週運行開始	26年(2014) 9月	国立国会図書館デジタル化資料送信サービス開始
" 6月	京都府図書館総合目録ネットワーク運用開始	" 9月	府民利用施設のあり方検証において「見直すべき施設」に区分
14年(2002) 4月	「子ども読書絵てがみコンテスト」実施	27年(2015) 4月	連絡協力車の全府立高校への巡回開始
15年(2003) 2月	館内完全分煙実施	" 4月	サビエ/視覚障害者情報総合ネットワークのサービス開始
18年(2006) 4月	インターネット貸出待ち登録サービス開始	" 6月	府立図書館サービスの充実に向けた検討会議設置
" 5月	電話による貸出延長サービス開始	28年(2016) 3月	図書館システム更新
" 12月	京都府図書館総合目録ネットワークに府内全市町村が参加	" 3月	府立図書館基本方針及び府立図書館サービス計画策定
19年(2007) 3月	取寄せ申込みeサービス開始	" 4月	機構改正により部課制(企画総務部:2課、図書サービス部:2課)施行
" 4月	連絡協力車の一部の府立高校への巡回開始	" 4月	カーリル社と連携協定締結
20年(2008) 5月	源氏物語千年紀記念事業(小展示・パネル展等)開催	" 7月	京都大学附属図書館との相互貸借試行開始(29年10月本格実施)
" 5月	インターネット貸出延長サービス開始	" 9月	図書館協議会設置のため、京都府立図書館設置条例全部改正、京都府立図書館条例公布(29年4月1日施行)
" 9月	学校支援セット貸出開始		

平成28年(2016)11月	京都府図書館総合目録ネットワークシステムの充実を図る産官学連携プロジェクト開始	平成30年(2018)4月	福知山公立大学メディアセンター、佛教大学附属図書館、府立医科大学附属図書館との相互貸借本格実施
〃 12月	京都府立図書館協議会委員の第1期委員公募開始		府議会図書館を窓口とした京都府庁への図書資料の配送の試験運用開始
29年(2017)2月	府内図書館等館長会議開催	30年(2018)10月	京都工芸繊維大学附属図書館との相互貸借本格実施
〃 3月	全国の公立図書館初のクラウドソーシング開始	30年(2018)11月	京都市図書館との「本の相互返却サービス」を「京都市図書館との返却本お預かりサービス」として本格実施
〃 4月	京都教育大学附属図書館との相互貸借に関する連携協定締結(運用29年4月～)	31年(2019)2月	岡崎での開館110周年記念事業実施
〃 10月	京都府立図書館協議会を設置連絡協力車の市町村立図書館等への巡回を週2回に増便	31年(2019)3月	京都府立大学附属図書館、花園大学情報センター(図書館)との相互貸借試行開始
平成29年(2017)11月	知的な交流の場「ナレッジベース」の試験運用開始	31年(2019)4月	京都府立大学附属図書館との相互貸借本格実施
〃 12月	子どもへの読書活動支援事業開始		
	京都市図書館との「本の相互返却サービス」の試行開始		
	マイナンバーカードを活用した「図書館共同利用システム」実証事業に参画		

2 歴代館長

氏 名	在 職 期 間
三宅 五郎三郎	明治31年4月 ～ 明治33年3月
原田 千之助	明治33年3月 ～ 明治33年12月
中道 貫一 (館長心得)	明治34年1月 ～ 明治34年2月
三宅 五郎三郎	明治34年4月 ～ 明治37年3月
湯浅 吉郎	明治37年3月 ～ 大正5年5月
北島 貞顕	大正5年10月 ～ 昭和15年11月
内藤 乾吉	昭和15年11月 ～ 昭和22年7月
西村 精一	昭和22年7月 ～ 昭和38年10月
相馬 利雄	昭和38年10月 ～ 昭和45年8月
岩崎 彰之助	昭和45年8月 ～ 昭和47年4月
吉川 博明	昭和47年4月 ～ 昭和48年6月
庄林 二三雄	昭和48年6月 ～ 昭和49年4月
宮本 英男	昭和49年4月 ～ 昭和50年3月
布村 忠雄	昭和50年4月 ～ 昭和55年4月
長谷川 啓司	昭和55年4月 ～ 昭和56年4月
浜辺 一彦	昭和56年4月 ～ 平成元年7月
上田 将 (本庁指導部長兼任)	平成元年7月 ～ 平成元年9月
林 芳男	平成元年9月 ～ 平成4年4月
柴田 實	平成4年4月 ～ 平成6年5月
高木 多喜男	平成6年6月 ～ 平成8年3月
五十嵐 一郎	平成8年4月 ～ 平成10年3月
西山 隆史 (本庁指導部長兼任)	平成10年4月 ～ 平成10年5月
小山 雄一	平成10年6月 ～ 平成13年3月
中里 隆憲	平成13年4月 ～ 平成16年3月
津守 俊一	平成16年4月 ～ 平成19年3月
松田 定	平成19年4月 ～ 平成21年3月
勝間 喜一郎	平成21年4月 ～ 平成24年3月
宮野 文穂	平成24年4月 ～ 平成28年3月
丸川 修	平成28年4月 ～

京都府立図書館基本方針

(平成28年3月改定)

図書館は、人々が知的で創造的な人生をおくるため、人類の知的遺産である出版物を中心とした文化資源を適切に収集・保存し、活用・発信する場です。

京都府立図書館は、この理念を踏まえ、変化の激しい社会において、新たな課題に直面する府民の知的活動の拠点となるとともに、府内全域に均質な図書館サービスを提供することにより、府民に期待される存在となることを目指します。

I 府内全域の図書館をつなぎ、支援するとともに、協力して図書館サービスを展開します

各公立図書館・学校図書館等の活動を支援しつつ、各館と協力することによって、府内の図書館サービスを充実させます。また、府民に的確に情報を提供するため、各公立図書館・学校図書館等と大学図書館等をつなぎ、府内の各種図書館のハブとしての機能を果たします。

II 多様な文化資源の情報を取り扱い、歴史と立地を活かしながら、幅広い調査研究のニーズに応えます

府立図書館の役割に応じた選書を行いつつ、多様な文化資源に関する情報を取り扱います。また、様々な情報を求める人々が利用しやすい図書館サービスを提供し、高度な知的要求に応えます。さらに100年を超える府立図書館の歴史と文化施設が集中する岡崎という立地を最大限に活かします。

III 議論し発信する場を提供し、課題を解決する拠点となることにより、文化の創造と地域の活性化に寄与します

多様な議論を展開しながら新たな情報を創造していく場を設定し、提供することにより、各機関・団体と連携し、様々な課題の解決につながる調査研究を支援します。あわせて、その成果を発信する拠点となり、こうした活動が各地で展開されるよう働きかけます。これらを通じて、京都の文化の創造と府内各地域の活性化に寄与します。

京都府立図書館資料収集方針

(平成28年12月改正)

京都府立図書館は、創設以来百年を超える収集資料を継承し、府内の中核的図書館として、現在及び将来の利用者のために、多様かつ的確な情報により資料を選定し、収集し、保存する。

1 基本的な考え

- (1) 府民の調査研究の拠点及び生涯学習を支援する図書館としてふさわしい資料を収集する。
- (2) 府内図書館ネットワークのセンターとして、市町村立図書館及び学校図書館振興のための資料を収集する。
- (3) 京都府立京都学・歴彩館をはじめとする文化施設との連携を考慮し、資料を収集する。
- (4) 多様な意見のある事柄については、幅広い観点から資料を収集する。

2 収集する資料

- (1) 収集する資料の種類は、図書、逐次刊行物、映像・音響・電子資料、障害者向け資料等とする。
- (2) 収集部数は原則として1部とする。
- (3) 収集した資料は、原則として永年保存とする。

3 収集方法

購入、寄贈等により収集する。

4 資料収集の協議

重要事項については、収集委員会により協議する。

5 資料選定の具体的基準

収集する資料の選定については、別に定める資料収集基準による。

京都府立図書館 サービス計画を策定しました！

京都府立図書館では、「京都府立図書館サービス計画（平成 28 年度～平成 32 年度）」を策定しましたので、お知らせします。

この計画は、広く府民を対象としたアンケート(※)を実施し、あわせて外部有識者で構成する検討会議でいただいた御意見を反映して策定したものです。

京都府立図書館は「図書館」の新たな可能性を切り拓きます

図書館は、人々が知的で創造的な人生をおくるため、人類の知的遺産である出版物を中心とした文化資源を適切に収集・保存し、活用・発信する場です。

この理念を踏まえ、京都府立図書館は、従来からの市町村支援機能と調査研究支援機能を十分に発揮しつつ、府立図書館が持つ資源を最大限活用して、新たな課題に直面する府民の知的活動の拠点となります。

現在、図書館をはじめ、文化・教育を取り巻く環境は、激しく変化しています。そのなかで、府立図書館が十分に存在感を発揮するためには、常に斬新なサービスに挑戦し、新たな価値を造り出す必要があると考え、府民に期待される存在となることを目指します。

サービス計画から ピックアップ！

◆ サービスデザインチームの設置

職員と図書館活動に関心のある外部の団体・個人によるサービスデザインチームを設置し、実験的なサービスや新しい事業に取り組みます。その成果を広く公開し、波及させることで、新事業の芽を作ります。

◆ 歴史ある図書館の演出と利用しやすい空間の構成

日本で最初の公立の図書館である「集書院」の伝統を引き継ぐ府立図書館の歴史を感じられる演出をするとともに、来館者が求める情報をスムーズに得られるよう案内します。

◆ 知的な交流の場の創設

多様な人々が互いに学び合い、対話・議論を行うことができる「知的な交流の場」を設置し、京都で活動する様々な個人や団体をつなぎ、課題を解決する拠点となります。

◆ 行政支援サービスの推進による府民への貢献

行政機関が課題解決に向けた施策を企画立案するためには、的確で幅広い情報を入手することが必要です。このため、府立図書館が行政支援サービスを行うことを通じて、府民への新たな貢献を目指します。

※府立図書館に関する府民アンケート調査

調査期間：平成 27 年 7～8 月

調査対象：住民基本台帳からの無作為抽出による郵送方式（4,000 名対象→有効回答 1,814 名）

図書館ホームページ上での WEB 方式（回答 680 名）

「京都府立図書館サービス計画(平成 28 年度～平成 32 年度)」

概 要

背景

かつて認識されていた「図書館像」は、貸出サービス中心のものです。現在、府立図書館はじめ各図書館は、社会の要請や利用者の求めに応じて、地域の実情に即した新しい形のサービス運営に努めています。

さらに、ICTの発展による情報の形態の多様化と、書籍をめぐる状況の激変のなかで、府立図書館も新たな役割を模索しています。

基本方針Ⅰ

府内全域の図書館をつなぎ、支援するとともに、協力して図書館サービスを展開します

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1 府内の各図書館とのネットワークの強化 | 3 学校支援の充実 |
| 2 市町村立図書館等への支援 | 4 子ども読書活動の支援 |

基本方針Ⅱ

多様な文化資源の情報を取り扱い、歴史と立地を活かしながら、幅広い調査研究のニーズに応えます

- | | |
|-----------------------------|---------------------|
| 5 多様な資料の収集・整理・提供 | 11 非来館サービスの充実 |
| 6 十分な収蔵空間の確保による資料の的確な保存 | 12 障害者サービス等の拡充 |
| 7 資料館・博物館・大学等と連携した文化資源の情報発信 | 13 「歴史ある府立図書館」の演出 |
| 8 電子図書館サービス・デジタルアーカイブなどへの展開 | 14 入りやすく利用しやすい空間の構成 |
| 9 所蔵資料紹介・レファレンス業務の充実 | 15 職員の育成 |
| 10 来館者への貸出サービス等の充実 | |

従来の機能を核に

基本方針Ⅲ

議論し発信する場を提供し、課題を解決する拠点となることにより、文化の創造と地域の活性化に寄与します

新たな
挑戦

- | |
|----------------------------|
| 16 「知的な交流の場」の創設 |
| 17 府立図書館の見える化の推進 |
| 18 各種講座の実施と情報発信 |
| 19 行政支援サービスの推進による府民への貢献 |
| 20 サービスデザインチームによる新たな取組への挑戦 |

※ 3つの基本方針/20の項目/64の具体策 により、斬新なサービスを開発・提供

事業概要（平成30年度のまとめ）

令和元年11月発行

発行者 京都府立図書館

〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町

TEL (075) 762-4655 (代)

FAX (075) 762-4653

URL <http://www.library.pref.kyoto.jp/>

